

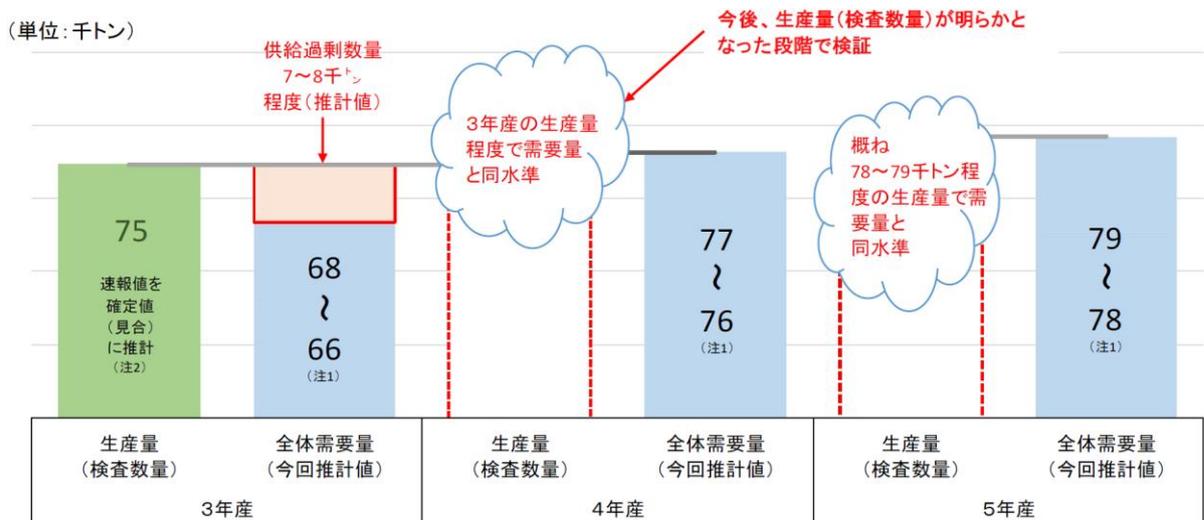
令和5年産酒造好適米 参考情報

兵庫県農業活性化協議会作成

1 全国の酒造好適米の需給見通し(酒造好適米等の需要量調査結果(令和4年9月)より)

- 令和3年産については、全体需要量と生産量を比較すると、7～8千トﾝ程度供給過剰となっていると推計され、令和4年産全体需要量については、令和3年産の全体需要量から+2千トﾝ程度増加となっている。
- 令和5年産については、生産量を全体需要量と同水準とするためには、78～79千トﾝ程度の生産量とする必要がある。なお、在庫状況並びに令和4年産に生産及び需要動向によっては、令和5年産の生産量の調整が必要となることも考えられる。

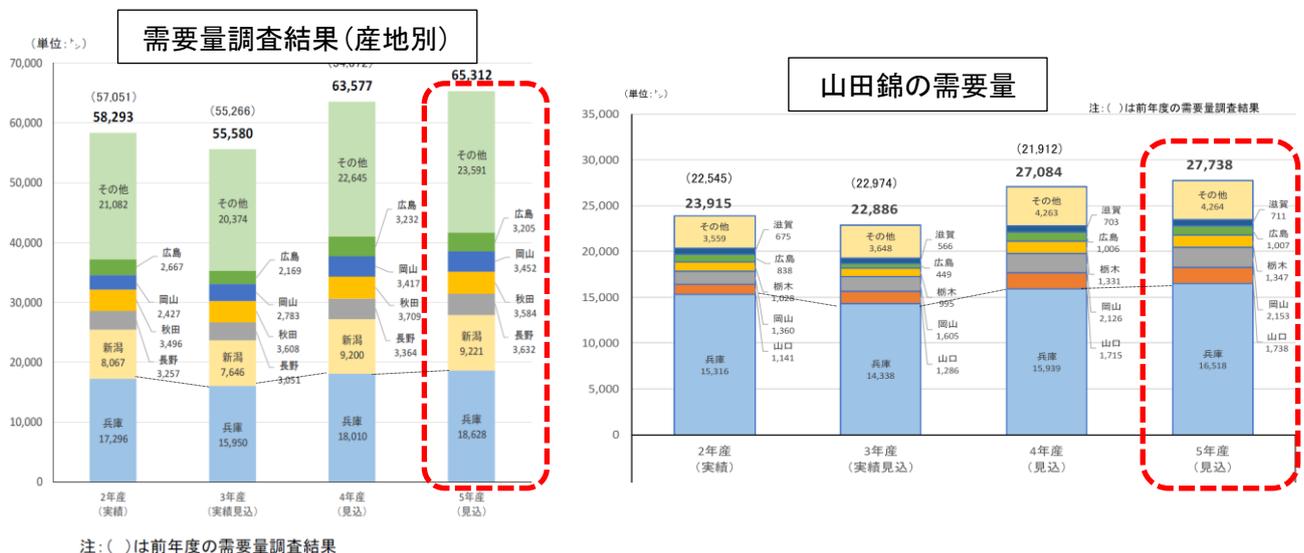
酒造好適米（醸造用玄米）の全体需給の状況



注1: 各年産の全体需要量(今回推計値)は、今回の需要量調査の数量ベース回収率が、令和2年産酒造好適米の全体需要量(69～71千トﾝ)と今回調査の令和2年産の需要量(約58千トﾝ)から約82～84%と推計されるため、各年産の今回調査結果の需要量を当該割合で除することにより算出。
 注2: 生産量は、農産物検査数量(醸造用玄米)の値。ただし、令和3年産は、令和4年3月31日現在の速報値を直近3カ年の3月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計。

2 産地別の需要量調査結果(酒造好適米等の需要量調査結果(令和4年9月)より)

- 令和5年産の兵庫県産酒造好適米の需要量(見込)は、前年産よりやや増加している。
- 兵庫県産山田錦の需要量についても、前年からやや増加すると見込まれている。



【その他参考情報】

○ 令和3年産酒造好適米の生産状況(日本酒をめぐる状況(令和4年10月)より)

- 令和3年産酒造好適米の生産量は、約 7.5 万トンとなっており、このうち、兵庫、新潟、岡山、秋田、長野の5県で約6割を占めている。
- 酒造好適米の中でも、特に「山田錦」は全国の酒造メーカーからのニーズが多く、兵庫県は全生産量の約 60%を占めている。

酒造好適米の産地別生産量の推移

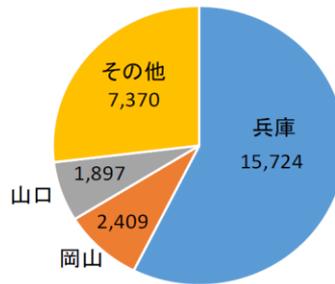
(単位:トン)

	平成 29年産	30年産	令和 元年産	2年産	3年産	シェア
全国計	102,400	95,856	96,454	85,179	74,616	100%
兵庫	28,377	25,606	25,766	22,338	20,684	28%
新潟	12,316	12,404	12,000	11,223	8,861	12%
岡山	6,283	5,251	5,704	4,029	4,620	6%
秋田	4,821	4,637	5,010	4,613	3,964	5%
長野	6,294	5,786	5,962	4,982	3,539	5%
その他	44,310	42,172	42,012	37,995	32,949	44%

資料:「農産物検査結果」(農林水産省)

注:令和3年産は、令和4年3月31日現在の速報値を直近3カ年の3月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計したものの。

【山田錦】



(単位:トン)

	3年産	シェア
兵庫	15,724	57%
岡山	2,409	9%
山口	1,897	7%
その他	7,370	27%

○ 日本酒の出荷状況(米に関するマンスリーレポート(令和4年10月)より)

- 日本酒の国内出荷量については、近年、減少傾向で推移しているが、平成30年以降は減少幅が大きくなり、これまで堅調に推移していた特定名称酒についても減少に転じた。
- 令和2年産以降については、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、業務用を中心に日本酒の国内出荷量が大幅に減少しており、特に酒造好適米を多く使用する特定名称酒が大幅に減少。
- 輸出については、海外での日本食ブーム等を背景に増加傾向で推移しており、令和3年には対前年比+47%と大幅に増加している。

日本酒の国内出荷量の推移

(千kl)

	10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年 (1~7月)	対前年同月比
日本酒国内出荷量	1,133	871	659	580	566	555	540	533	495	467	419	404	189	92%
特定名称酒	291	221	174	164	167	173	178	179	171	165	142	138	69	103%
吟醸酒	34	30	20	21	24	25	24	24	23	22	20	19	9	98%
純米吟醸酒	25	26	24	29	32	37	42	45	45	45	40	42	22	107%
純米酒	62	54	57	58	59	62	65	67	64	62	55	53	26	100%
本醸造酒	169	111	73	56	52	49	46	43	38	35	27	24	11	104%
一般酒	842	650	485	416	399	382	362	353	324	302	276	266	120	86%

資料:日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。令和4年は概算値。また、令和4年については、京都府のデータが3月以降未集計となっている。

注1:清酒は、一般酒のほか、原料米及び製造方法などの諸条件(原料、精米歩留)により、吟醸酒、純米酒、本醸造酒等に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。一般酒は日本酒国内出荷量から特定名称酒の数量を差し引いて算出。
2:国内出荷量には輸出量は含まれていない。

日本酒の輸出量の推移

(千kl)

	10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年 (1~7月)	対前年同月比
日本酒輸出量	8	8	12	16	16	18	20	23	26	25	22	32	20.9	118%
アメリカ合衆国	1	2	4	4	4	5	5	6	6	6	5	9	5.8	128%
中華人民共和国	0	0	0	1	1	2	2	3	4	5	5	7	4.0	96%
香港	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	3	3	1.6	90%
台湾	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	1.7	112%
大韓民国	0	0	2	4	3	3	4	5	5	3	2	2	2.1	151%
その他	2	2	3	4	4	5	5	6	6	6	5	8	5.6	134%

資料:「貿易統計」(財務省)。年は暦年。

◇ 兵庫県農業活性化協議会では、令和5年産酒造好適米の作付判断の参考としていただけるよう、国の需要量調査の結果等を基に、参考情報を提供しております。

なお、酒造好適米の生産については、酒造メーカーとの全量契約栽培が基本となりますので、地域の関係者や生産者の皆様には、これらの情勢を注視しながら、最寄りのJAや集荷業者等に早めに需要の動向を御確認いただき、売り先・行き先を確保したうえで取り組んでいただきますようお願いいたします。